



**長 崎 県**  
中小企業家同友会

**DOYU**

ニュース  
**21**

E-mail jim@nagasaki.doyu.jp  
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

**「私たち中小企業家が長崎県を牽引していく」  
～同友会の学びで時代の変化をチャンスに!～**

**2019年 第6回 経営労働問題全国交流会 in 岩手・  
2019年度 第1回 中同協 経営労働委員会**

日時：8月29・30日(木・金) 会場：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING  
テーマ：人を生かす経営の実践を地域の隅々にまで広げよう

1 日 目	問題提起①	香川県ケアマネジメントセンター(株) 代表取締役 林 哲也氏 (中同協 経営労働委員長、香川同友会 代表理事)
	事例報告①	東洋産業(株) 代表取締役 玄地 学氏 (宮城同友会 副代表理事、経営労働委員長) (株)国本 代表取締役 引地 豊氏 (宮城同友会 共同求人委員長、大崎支部副支部長)
	事例報告②	(株)タナベ刺繍 代表取締役 田部 智章氏 (香川同友会 理事、社員教育委員長)
2 日 目	特別報告	東日本機電開発(株) 取締役会長 水戸谷 完爾氏 (岩手同友会 相談役理事) 東日本機電開発(株) 代表取締役 水戸谷 剛氏 (岩手同友会 副代表理事、経営労働委員長)
	問題提起②	(株)山田製作所 代表取締役 山田 茂氏 (中同協 経営労働副委員長、大阪同友会 代表理事)

**理事・経営労働委員長 宇土 敏郎**

全国から39の同友会、200名以上の会員が参加して第6回経営労働問題全国交流会が行われました。

1日目に中同協の林経営労働委員長から私達に求められる「地域を生きる企業づくりへの覚悟、そして実践」～同友会らしい企業づくりを阻む「3つの壁」～というテーマで問題提起①がありました。

最初に企業変革支援プログラムIの登録状況に大きな差がある。(トップの大阪は409件、1桁が29県(長崎は6件)、経営指針の成文化と実践が「総合



**目次**

2019年 第6回 経営労働問題全国交流会 in 岩手・ 2019年度 第1回 中同協 経営労働委員会	1	インターンシップ受け入れ報告(県共同求人委員会)	15
各界からの提言	4	会員活躍	16
8月例会報告	5	事務局企業訪問	17
中同協障害者問題委員会 参加報告	11	入会・復会・交代会員紹介	18
中同協 第51回 定時総会 in 東京 参加報告	12	理事会報告	20
中同協 会員増強決起集会 参加報告	13	10月例会案内	22
		会員動向・会員数	22



的に花開く運動」と呼ぶには開きがある。その原因は3つ考えられる。

①学び方が「本質」に向かい合っているか  
 労使見解の理解不足があるのでは？

②「運動のため」だけに参加していないか  
 自社経営に繋がる同友会運動こそ魂が宿る、経営課題を自覚して場に参加することでこそ学ぶことができる、「何をいつやるか？」を意識しているか

③経営者の「責任」の理解

労使見解で「社員は最も信頼できるパートナー」となっている。信頼と信用は違う、信頼は一切の条件を付けない、無条件に信じること。信用は条件付き。「裏切られる勇気」を持つこと、裏切られても「信頼した自分」に誇りを持つこと、信頼したという揺るぎない覚悟・自信があるか、そのためには「真の人間力による人間愛」が必要

の3つの課題解決の提起がありました。今後の同友会活動において、経営者としての自己変革の在り方を問われ、大いなる気付きを得ました。

実践報告では宮城同友会の活動が報告されました。更に香川同友会から、点の経営（様々な取組み）が経営指針の成文化と実践で線の経営に変わったとの報告がありました。

2日目は地元岩手同友会から、「自主性が自然に発揮できる企業、同友会を目指して」のテーマで特別報告があり、問題提起②として大阪同友会より、「今こそ『働く環境づくり』の運動を推進しよう」がありま

#### 同友会事務局 田口 友廣

隔年で開催されている「経営労働問題全国交流会」ですが、中同協経営労働委員会が所管する各分野の交流や経営労働・経営指針に携わる各同友会会員が企業づくりについて、より見識を深めることを目指しています。

はじめに中同協の林経営労働委員長より問題提起として、「同友会らしい企業づくりを阻む3つの壁」や、「増強する経営労働委員会」の話がありました。これ

した。

経営指針の成文化と実践が経営を維持することや利益優先で、労働環境改善は後回しにし、社員の犠牲の上に利益が成り立っていませんか？と報告がありました。「やりがいブラック企業」になっていないかとの指摘は考えさせられました。

総評：経営労働委員長として労使見解の理解、経営指針の成文化、実践の企業変革支援プログラム、更に働く環境づくりを総合実践することを推進する大切さを改めて実感しました。

そして、中同協経営労働委員会が全国から31の同友会、79名の会員が参加して行われました。

#### 第1部 報告・審議・協議事項

- ・新体制：委員長1名、副委員長5名
- ・2019第6回経営労働問題全国交流会の振返りと2021第7回は山口開催を決定
- ・第50回京都全研の概要(案)の報告
- ・「働く環境づくり」の運動をどう進めるか
- ・企業変革支援プログラム改訂作業進捗報告

#### 第2部 今年度の活動の交流

- ・経営労働委員会の各地の活動と課題を共有

総評：この全国委員長会議でいつも感じることは、経営指針の成文化と実践がいかに重要なのか、成果の出ている同友会は更なる取り組みの幅を広げている。各地同友会の核となる会員が支部、委員会を引っ張っている。経営指針の成文化と実践をしている会員が理事として活躍している。「語り部」の育成が進んでいることを感じました。

新たに、各地で人を生かす経営推進として経営労働・共育・共同求人・ダイバーシティの活動が増えてきています。

長崎の課題である県と支部の一体的な活動を進め、4委員会の連携も図り、活動の幅を広げていきます。

は仲間づくり委員会だけが増強をするのではなく、経営労働委員会としての取り組みを地域に知らせ、委員会相互に協力することで専門委員会の活動も進むのではという香川同友会の取り組みの紹介があり、委員会が連携をすること・情報を発信することの大切さについて学びました。

事例報告①として宮城同友会の玄地さんと引地さんからは宮城同友会としての経営労働委員会と共同求人委員会の取り組みについて報告がありました。ここで学んだことは、データだけを見ると経営指針の成文化

や実践が進んでいなくとも、実践している企業は多くあり、実践の中身について様々な視点から見ることも大切ではないかということでした。とはいえ、王道は労使見解を理解し、経営指針書を社員とともに成文化し実践することですので、経営指針の成文化運動は粘り強く続けなければいけないということも学びました。

事例報告②香川同友会の田部さんの報告で感じたことは、課題を持って行動するからこそスピーディーに物事が展開していくということでした。また、経営指針書を自社に浸透させるのは、田部さん一人では難しいと感じて、幹部社員も同友会に入会、社員を例会に連れていくなど、共に学ぶことや巻き込むことの大切さも学ばせていただきました。

特別報告では岩手同友会の水戸谷さん親子の報告でした。労使見解を基軸にとらえ「社員が自主的になる取り組みかどうか」を会社づくりにおいて問い続けてきたという水戸谷さんの会社の歴史は圧巻でした。また岩手同友会の経営労働委員長と自社の事業ともに承継をしたという話から、徹底した同友会運動と自社経営の不離一体の実践について学びました。

問題提起②として中同協の山田経営労働副委員長から、経営指針全社一丸で実践というのはどのようなことか、その確立のためにどのように努力をしていますかという問いかけがありました。そこで実践の実現のために『働く環境づくりの手引き』を活用しようという提起がありました。

これまでに経営指針の実践が進んでいないということが中同協の経営労働委員会で議論され、その過程の中で『企業変革支援プログラム』ができ、『働く環境づくりの手引き』ができました。一貫性がある取り組みのなかで、発刊されたツールをみなさんで使っていく。もし取り組まれている企業があるのであれば、今一度経営指針の中身を見直していただき、『経営指針成文化と実践の手引き』を使用し、取り入れながら見直していくという活用の仕方もあるのではと、示唆いただきました。

交流会終了後に中同協経営労働委員会が開催されました。

冒頭に中同協の林経営労働委員長より、①労使見解の理解と実践の推進 ②経営指針成文化・実践運動の推進 ③企業変革支援プログラムの普及と改訂の推進 ④労使見解の今日的課題 ⑤5万名増強に向けて「増強する経営労働委員会」になろうというあいさつがありました。

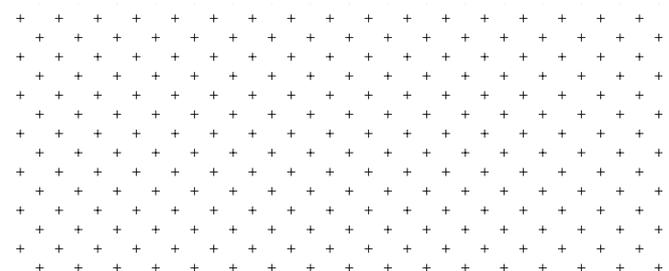
議題の中では『働く環境づくり』の運動をどのように進めるかということで、各地の情報交換が行われました。その中で仲間を減らさないためにも本質的な同友会の学びが必要と考え、経営指針をつくることに高いハードルを感じている会員のために基礎講座を行う

などの取り組みが紹介されました。また、交流会でも提起のあった「増強する経営労働委員会」についてもあらためて呼びかけがありました。また運動を進めるにあたり、「公正取引の実現の課題」「最低賃金引き上げなどの課題」等、様々な観点からの話し合いもありました。

企業変革支援プログラムについてはSTEP1のe.doyu登録強化・普及月間が今年度も11・12月に行われることが承認されました。その際に取り組む目的についても確認がされ、①自社の現状の確認 ②データを集積することで施策に反映ができる ③11・12月に行うのは、経営フォーラムの開催時期に合わせているため といったことも確認がされ、私自身も改めて目的を確認することができました。

交流会と委員会を通して、労使見解の大切さと経営指針の成文化と実践のために自社の状況を把握するための企業変革支援プログラムに取り組むことが重要であることを深く学ぶことができました。

今回学ばせていただいたことを会活動に活かして参ります。ありがとうございました。



# 各界からの提言

活水学院 院長、活水女子大学 学長 湯口 隆司



## プロフィール

1952年茨城県生まれ。水戸第一高等学校卒、青山学院大学理工学研究科物理学博士前期、上智大学文学研究科新聞学博士後期課程修了。日本ルーテルアワー総責任者。聖望学園中・高校長、活水中・高校長。現在活水学院院長・活水女子大学学長。長崎保育協会理事、キリスト教学校教育同盟常任理事、長崎いのちの電話評議員。

少子化と国家財政を背景にして、文科省は主体的な学びを目指す方針のもと高校までの新学習指導要領、高等教育では高大連携の推進、大学入試改革、そして来年度からの高等教育無償化（新修学支援制度）など大改革の最中に教育界は置かれています。

大学改革の一つが産官学連携の推進です。これまで私学は教員派遣など自治体とは長い連携実績がありましたが、産業界との連携は遅れがちでした。一定数の実務家教員の確保や産学連携は文科省の補助金要件ですが、協同研究、人材育成、連携推進方策などは産学双方にとって連携面の弱点でした。

企業と私学は地域密着型組織という共通項を持っています。サイバー大学は別として大学はその土地に建ち教育を通して人を育てる組織です。学校法人は利益の追求が第一ではありませんが経営の健全化は存続の最低限の条件ですし、会社・企業と同様に地域との運命共同体です。このことを制約条件と解するのでなく、人が住む魅力ある街になろうとする意志を共に確認し地域全体で取り組むべきでしょう。

活水女子大学は英語や国語、音楽等の教員養成に加え、看護師や管理栄養士資格養成、

一級建築士カリキュラムや地域ビジネスなどを学ぶ4学部7学科をもつ大学です。同友会がされているPDCAやSWOT分析等は、学科単位、全学レベルで、また理事会レベルでは目標管理、研修会などでガバナンス強化に役立っています。核心はIRなどデータ分析からどのように組織を動かし活性化するかです。組織として経営手腕が問われる点でも同友会の皆さんと共通しています。

中小企業家同友会を知ったのはこの広報誌でした。理論・経験知を現場に活かす努力をしている貴団体の真剣度を直感しその後、「元気を頂くため」総会に出席をしてきました。

大学にとって必要なことは机上の知識体系を使う場と体験です。香港の長年の友人が若き頃、ボストンの大学に留学し経済学を履修した時、授業で20ドル程度の株を買わされ、彼は俄然授業に身が入ったという話を思い出します。英語と同様に経済や経営学などの社会科学は実務で身に付きます。私は40代末に東京で民間校長となって以来、教育界と企業の格差を感じつつ今日に至りました。産業界と教育との出会いの創出は学生にとっても企業にも今後大きなメリットになると思っています。

## 長崎浦上支部 例会報告

日 時	8月27日(火) 18:30～21:00
会 場	ガレージ酒場
テ ー マ	会員親睦交流会・会員間の絆を深めよう！ ～実は…私の会社はこんな事やってます～



今回は、「知っているようで知らないかもしれない？！会員さんのお仕事」をテーマに、参加された会員全員が自分の仕事の内容や企業PRを行いました。

やはり皆さん自社のPRとなると熱が入り、一人一分の持ち時間では足りないようでした。しかし、改めて仕事の内容を聞いてみると、多角化経営をされていたり、そんなこともしてるの？！というような発見もあり、普段とは違う側面も垣間見ることができました。

企業PR終了後の懇親会では、PRしきれなかった部分を個別で話をしたり、相談をしたりと大変盛り上がった懇親会となりました。

また諫早支部から経営フォーラムのキャラバン隊も



こられており、報告前と例会終盤の二回PRをしていただきました。

今回の例会では会員の違った一面を知ることができ、今まで以上に会員間の親睦を深めることができました。この勢いを今後の支部活動に生かしていければと思えるほど大変盛り上がった例会となりました。

(文責 吉川 裕也)

## 長崎出島支部 例会報告

日 時	8月20日(火) 18:00～20:30
会 場	ホテルニュー長崎
テ ー マ	ラグビーワールドカップ2019 長崎の取り組み ～1億の事業を立ち上げるための道のり～
報 告 者	アジャスト(株) エグゼクティブプロデューサー 長崎県ラグビーフットボール協会 理事 太田 伸二 氏

今回は、9月20日から開催されるラグビーワールドカップ日本大会において強豪スコットランド代表チームのキャンプ地を長崎市へ誘致された立役者の太田伸二氏を招いて報告していただきました。報告者の太田氏は、フェアキャッチ(株)代表取締役、アジャスト(株)エグゼクティブプロデューサー、長崎県ラグビーフットボール協会理事として活躍されていらっしゃいます。

太田氏は、2009年長崎県ラグビーフットボール協会に入会し、その年の7月にラグビーワールドカッ



プ日本大会開催が決定しました。2002年に、サッカーワールドカップ日本大会が開催され、試合会場として成功した大分県のように、ラグビーワールドカップ日本大会で、長崎県は試合会場を立候補すべきだと奮闘しますが、2015年長崎県は、試合会場に落選します。

絶望と落胆していた時、協会理事長より「ラグビーをしていたのだから、倒されたらすぐ立ち上がるん



だ。」と言われ、太田氏は、試合会場誘致で倒されましたが、キャンプ地誘致へ向け立ち上がります。その後、太田氏の人脉から、キャンプ地誘致のため、エージェントをブレインとし、長崎とゆかりの深いスコットランド人「トーマス・グラバー」を頼りにスコットランドチームの誘致に奮闘します。スコットランドチームトップから、150年以上前の祖先のグラバー氏を長崎で大切に思っていることに感銘されたのをきっかけに親交を深め、長崎市をキャンプ地として決定。日本で一番早いキャンプ地決定だったそうです。



今回は、キャンプ地誘致のストーリーを報告していただきましたが、長崎誘致を、ひとつの事業として捉えると学びの多い報告だと感じました。

ラグビーワールドカップの予選は、日本とスコットランドが同じ組で、注目される試合になるとのことです。太田さんは、日本よりスコットランドを応援するとおっしゃっていました。ここ数年の誘致の活動で、スコットランドチームとの交流や親交の深さを感じました。

(文責 加瀬 和利)

## 大村支部 例会報告

日 時	8月17日(土) 18:30~21:00
会 場	おおむら夢ファーム シュシュ
テ ー マ	納涼!焼肉!家族で交流例会



大村支部の8月の恒例行事である家族交流例会が、例年よりもパワーアップして開催されました。

今年は事前の企画段階で「大村支部会員の事業をより活用し、交流例会を盛り上げる」をテーマに掲げました。

まずは、料理面では開催場所を提供していただいている山口さんのおおむら夢ファームシュシュ レストランからの提供料理を地元畜産家のお肉を使ったおいしい焼肉に!

女性会員、会員の奥様、お子様向けに(有)野添商事の野添さん提供の夏のおいしい果物を使ったフルー



ツビュッフェに! (こちらは大好評だったため会食直後すぐに完売でした)

そしてお子様向けに大村製氷(株)の村山さんよりかき氷食べ放題を提供いただきました。(何杯もおかわりするお子様もいました)

交流例会の恒例企画である幸せの景品くじではイチセライス(株)の市瀬さんから平戸の棚田米、(株)琴

花園の大塚さんからフラワーギフトが提供されるなど所属会員の取扱商品を知る機会になりました。

普段の例会ではなかなか知ることのできない会員の事業を知り、ご家族にとっては同友会の活動をより理解していただくことで経営者の学びの場、機会の重要性を深めていただく日になったことは間違いありません。

同友会会員はご家族や社員さんの理解、支えなどがあることにより、安心して事業をすることへの感謝の気持ちや本音で語り合える会員同士の結びつきをより強くする例会となりました。

(文責 徳田 義彦)

## 諫早支部 例会報告

日 時	8月22日(木) 18:30～21:00
会 場	ロイヤルベルズ諫早
テ ー マ	経営指針作りは人を生かす経営の原点
報 告 者	チェンジコンサルティング(同) 業務執行社員 宇土 敏郎 会員(大村支部)



宇土さんは経営指針作成にご尽力されています。ご自身の思いとして同友会のスローガンである「会員の要望・相談に応えられる会にしよう」という言葉に対して本当にそのような会になっているか？ということをお話いただきました。

同友会の理念、労使見解、「三位一体」の経営実践など会の基本的な考え方、目的を振り返って会員の理解を図りました。良い経営を継続していくためにまずやるべきことは、経営者自身が変わることから始めていかないといけないということ。同友会で学んだこと



を各企業に持ち帰り、実践してまた同友会に戻して学ぶというサイクルを回しながら企業発展を目指す。「同友会と企業経営は不離一体の精神」を実現させるということを学びました。

その中で大切になるのが経営指針をつくり社員に進むべき方向を示すことだということでした。経営指針とは①経営理念、②10年ビジョン、③経営方針、④経営計画の構成でまとめ毎年更新しながら、環境の変化に対応して強い企業をつくっていくべきだと訴えられました。

報告を聞いた会員からは「同友会の理念を再認識させてもらった」「経営指針を示すことは大切だ」「後継者のために何をすべきか」「安心を与えられる会社になりたい」などの意見が出ました。

まとめとして、同友会をうまく活用して自社経営に生かすためにはまずは行動をすることが非常に大切だということ。夢を実現させるために語り、共有し、学び、実践するという思いを強く持たせていただいた非常に実のある例会となりました。

(文責 野方 康平)

## 島原支部 例会報告

日 時	8月23日(金) 19:00～21:00
会 場	HOTEL シーサイド島原
テ ー マ	今から備える増税対策
報 告 者	税理士法人 ウィズラン 代表社員 松永 いづみ 会員(北松浦支部)

報告の前半は税金の種類と個人の節税対策の話でした。先ず日本の税金の種類はどの位あるかご存じです

かとの問いで、答えは約50種類とのことでした。次に倒産防止共済(セーフティ共済)や旅費規程、決算賞与など様々な経費の中でどうしたら節税できるのか細かく報告していただきました。またIDECO(個人型確定拠出年金)などタイムリーな話題にもふれていただき学びの深い時間でした。ただ「お金を出不いで節税する方法」ではなく「お金を出して節税する方法」に終始していただき企業経営に前向きな節税の話で大変有益でした。他にも贈与税・相続税の資料等、数々の資料をいただき大変参考になりました。



報告後半は10月に消費税増税に関して行われる消費税軽減税率制度についてでした。身近な税率ですが、非常に複雑な税制なのでしっかりと考えて準備する必要があります。まさにこのタイミングで報告いただけたのでとてもいい機会でした。農業に従事しておられる方は普段税制になじみが薄いためあまり意識しておられない方も多かった様子でしたがこれを機会にしっかりと税について理解を深めようという前向きな姿勢もみられました。

質問に関しては大きく2つの分類の質問ができました。一つ目は具体的に身近なものが8%なのか10%なのかの質問でした。例をあげるとお中元等の飲物詰め合わせ(ジュースとアルコール飲料)などの場合はどちらの税率が適用されるのか、という質問です。答えは金額と比率割合によって決まるということでした。



た。二つ目は8%の時に多くの仕入材料などの購入をし、10月以降に販売してはどうかなど利益面での質問でしたが、その点より経営を行う上での運転資金面や在庫面などの検討も必要との別の視点からのアドバイスがありました。実際にわかりづらく馴染みのない税制ですが、具体的に返答いただけたので各々の企業の状況に大変有益だったように思いました。

最後は第26回経営フォーラムで諫早支部の方がキャラバンに多数お見えになり盛り上がりのなか閉会しました。

(文責 中山 実津雄)

## 佐世保支部 例会報告

日 時	8月9日(金) 18:00 ~ 20:00
会 場	九十九島ベイサイドホテル&リゾートFLAGS
テ ー マ	経営体験・同友会との出会いから得たもの ~危機感の中で時代を見据えた新たな挑戦~
報 告 者	(有)ワイエヌコンサル 代表取締役 横田 耕詞 会員(島原支部)



今回は、毎年8月恒例の「8月同友会を知る例会」として、支部会員の皆様と各会員の社員さんに同友会を深く知ってもらおうと言うコンセプトで、「社員のための同友会を知る会」・「8月例会」と2部構成とし

て開催しました。

同友会を知る会と題して例会を行うのは6年目となります。報告者の横田さんは、個人を対象とした土地家屋調査士事務所・測量設計を行う(有)ワイエヌコンサル、島原雲仙ドローンスクール、学校法人横田学園など様々な事業を手がけられています。その中で学んだことをご報告いただきました。

まず、「目標を持つことの大切さ」で、25年カレンダーを作成しているそうですが、それを作成したことで、チャンスを見落とさずに現実化していったと報告され、「時間をどう使うかでその人の価値が決まる」と言われました。私はその言葉がとても印象的でした、グループディスカッションでも25年カレンダーを作



成していくなど前向きな意見が多く出ました。

また、横田さんはそうやって未来を考えると業務拡大と同時にリスクや危機感を考えるようになった、そのような中で

同友会の全国大会に参加した際に、東北の会員の方に、「これからは常に災害のことも視野に入れて仕事に取り組む必要がある。経営指針書にリスクについて記載をしている」と言われ、更にリスクや危機感を考える

ようになったと言われていました。私も含め報告を聞いた佐世保支部の会員もリスクや未来について考えるいいきっかけになったと思います。

その他にも様々なことをお話しされましたが、最後に今後の展望をご報告され、実践と継続・感謝し続けること、感謝することで今の自分はここにいると言われ報告を終わられました。私も実践と継続・感謝を忘れずにこれからの経営・人生を進んでいきたいと、前向きな気持ちになれるご報告でした。

(文責 府川 正樹)

## 北松浦支部 例会報告

日 時	8月31日(土) 15:30
会 場	(株)稲沢鐵工 本社工場
テ ー マ	納涼例会!!「会社訪問」
報 告 者	(株)稲沢鐵工 代表取締役 稲沢 文員 会員



今回の例会は趣向を変えて、土曜日の15時30分スタート。

業績好調で、新工場も完成し今後益々の事業拡大が期待される(株)稲沢鐵工の工場見学。あわせて、稲沢さんより業況と今後の展望について報告いただきました。

北松浦支部においては、例会出席率のアップや、今後の支部活動の活性化に向けて、活動内容の改革を課題としており、7月の座談会形式の例会で意見を交わし、8月の納涼例会で懇親を深めるという趣旨に基づいた内容となりました。

稲沢さんからは、リーマンショックによるダメージから、見事に立ち直り、業績をV字回復させた成功経緯を、数値的変革も含め惜しみなく報告いただき、財務内容が安定し、設備投資効果が期待される現在においても、常に危機意識をもって業務改革にあたられており、人材育成、部門別業務の統廃合、クレームゼロへのチャレンジ等々具体的取組を報告いただ



きました。

その後の懇親バーベキュー会では、本日冒頭より参加いただいていたおりました諫早支部による第26回経営フォーラム in いさはやのキャラバンを実施いただきました。今回のフォーラムは初の試み尽くしであり、成功に向け広報も熱のこもったものとなりました。

悪天候の続く中での日程でしたが、会の時間中は晴れ間もあり、キャラバンに至っては大きな虹がかかり、その成功を約束してくれたような雰囲気となりました。

今回の例会の準備のためにご尽力いただきました会員関係者の方々に感謝いたします。

(文責 前川 浩二)

## 五島支部 例会報告

日 時	8月21日(水) 19:00～21:00
会 場	お食事処 椿茶屋
内 容	納涼例会



今回は納涼例会ということで、片山さんの会社が運営する囲炉裏を囲んで食事ができる椿茶屋での開催となりました。毎年、納涼例会にはフォーラム担当支部の方々がキャラバンに来ていただき楽しい例会になるのですが、今年は特に実行委員長がパワフル平湯



さんということで、参加申込書とペンを持って諫早の会員さんが各席をまわり、その場で参加申込書をいただくという荒業に取り組んでおられました。おかげで五島支部の会員もフォーラム参加への意

識が上がったと思います。

今年のフォーラムは経営者の合宿ともいえるような内容と聞いております。五島支部はいずれにしても宿泊での参加になるので、実りある合宿フォーラムの内容になることを期待しながら五島支部からの参加者を増やしていきたいと思っています。

例会とはいうと、ギター演奏での歌があったり、他のお客さんから「この元氣な団体さんは何ですか？」声を掛けられたり、残暑が吹き飛ぶ盛り上がった例会でした。

(文責 浦上 純人)

## 青年経営者会 例会報告

日 時	8月25日(日) 12:00～16:00
会 場	ヴィラテラス大村(ランチ) 大村Jボウル(ボーリング大会)
内 容	サマーイベント



今回は、毎年恒例のサマーイベントを開催しました。会員のご家族も気軽にご参加できるように、今回はラ



ンチ会からのボーリング大会を企画しました。青年経営者会は今期から県南、県央、県北の3ブロック体制になりましたので、これまではほぼ県南地区で行っていたイベントですが、今回は県央地区の大村で行いました。

県央地区からは諫早支部の山口さん、廣谷さんに参加いただきました。ランチ会からのスタートで、会場は小洒落た感じのお店の中、改めての自己紹介から、

山口さん、廣谷さんから「第26回経営フォーラム in いさはや」の告知も行っていただきました。いつものイベントとは違う雰囲気、参加した子どもたちも最初は緊張気味で大人しかったのですが、食べ終わる頃にはうろうろしだし、会員同士の会話も弾み、とても賑やかになっていました。

食事が終わった後は、ボーリング大会のため大村Jボウルへ移動。3レーンに分かれて行いましたが、大人も子どもも奮闘し、レーンに関係なくスペアやストライクが出ればみんなで拍手喝采、ハイタッチしたりなど、大いに盛り上がりました。結果発表では、大人の部では飛田会長、子供の部では飛田会長の娘さんと、見事に親子で優勝でした。参加してくれた子どもたちには景品も渡され、喜んでもらえたのではないかと思います。

県央の大村での開催は新鮮味があり、よかったと思



います。せっかくの3ブロック体制なので、これからはさらに活動範囲を広めて、この様なイベントを通して青年経営者会の会員同士の親睦を深め、ますます盛り上げていければと思います。

(文責 長崎浦上支部 山崎 晃)

## 中同協 障害者問題委員会 参加報告

日時：8月2日(金) 会場：全水道会館(東京)

副代表理事 中村 こずえ

全国から47名の各県委員長、副委員長が参加されました。

今回の議題は、

- 1、第20回障害者問題全国交流会(滋賀)について
- 2、障害者問題委員会の手引き(案)について
- 3、2020年度国の政策に対する中小企業家の要望について
- 4、全国行事について
- 5、その他

その後、慶應義塾大学、中島隆信教授の「障害者の経済学～中小企業にできること」という講演を聞き、グループディスカッションを行いました。

中島教授は普段はどちらかというと大企業向けにお話をされるのですが、今回は中小企業向けに内容を少し作り変えてお話をいただきました。その中でも皆

が共感したのは

- 1、大企業の障害者雇用はモデルケースとして取り挙げられているが、既に曲がり角にきている
- 2、現場仕事中心の中小企業こそ障害者雇用のリーダーであるという点でした。

更に、グループディスカッションを聞かれた中島教授から、「今回、中小企業家同友会の委員会に参加して皆さんの障害者雇用についての思いを知る事ができて、目から鱗でした。現場で障害者の方と向き合っている経営者の方々の熱い思いが伝わってきました。これからも連携して取り組んで行きたい」との感想をいただきました。

中小企業だからこそできる一人ひとりの個性を生かし、全ての人が地域と共生する社会。それに向けて活動している同友会の意義、使命、役割の大切さを感じた委員会でした。

会計freeの本格的な導入支援と操作支援を始めました!!

freeに興味がある方、既に導入したものの上手く活用出来ていない方、ご相談下さい。

▷会計free導入費用(開始残高登録と2時間の操作指導)…15,000円～

※会計freeの使用料は別途

▷会計free個別操作指導…当社研修室使用(諫早または大村)(3,000円/2時間)

これ以外で、会計freeの機能を使って事務の流れを再構築したい方もご相談に乗ります。

問合せ先 TM事務ソリューション

長崎県諫早市津久葉町5-121 津久葉エステートビル213号

TEL.0957-46-3900/FAX.0957-46-3901 mail.soumu@tm-jim.com



# 広告募集

<4cm x 9cm>

複数月 割引	6ヶ月	12,000→10,000
	4ヶ月	8,000→7,000
	3ヶ月	6,000→5,000

溝越 正 会員(長崎浦上支部)

# 中同協 第51回 定時総会 in 東京 参加報告

日時：7月4・5日(木・金) 会場：京王プラザホテル

## 第12分科会

### 仲間づくりは誰のため？ 増と強で、強い組織づくりを！

～課題から見えてきた「顔の見える支部活動」～

(福)宮共生会 理事長 原田 良太 氏  
(株)村上彫刻 専務取締役 村上 敦子 氏

理事・仲間づくり委員長 原田 良太



今回の定時総会では、12分科会にて、報告させていただいた。報告は村上さんとの共同報告ということで、通常の報告とは違い難しい場面もあったが、村上さんの実践報告はまさに同友会を生かし、自社を発展させてきた歴史そのものであるため、今回の報告要旨である「増」と「強」のバランスという点においては非常に良い報告になったのではないかと感じた。

本分科会は全国の組織強化の実践者が集う分科会ということもあり、非常に緊張したが、全体的な雰囲気としては中同協の目標である5万名に向けてどう動きをつくるか、どう明日から実践するべきかということを考えている人たちがばかりということもあり、大変レベ



ルの高い分科会での議論がなされていたように感じた。

また、支部単位の悩みについては、支部の規模に差はあれど、悩みの質はどこも近いものがあるように感じた。だからこそ、中同協におけるある程度のレベルを平準化させる仕組みづくりというのは非常に重要ではないかと感じた。

なぜ、いま同友会が必要か。同友会が仲間を増やすことで地域に対してどのようなインパクトを与えることができるのか。そういったことを改めて会員の皆さんと共有していかなければいけないと感じた分科会であった。

定時総会では、中小企業を取り巻く経営環境がどう変わってきているか、また、そのような中での同友会会員企業が地域において果たす役割は何かということを変更して認識させる内容となっており、今年度の活動についても方針に沿って活動を進めることで、地域を良くし、地域が良くなることで自社の経営環境の改善につながるという事を再確認することができた。

今回定時総会にて報告させていただいたことは、自社の振り返りの時間にもなり、大変有意義でした。ありがとうございました。

## 第16分科会

### 未来の見える事務局づくり

～事務局の採用と育成のあり方を考える～

(株)ヒューマンライフ 代表取締役  
中同協幹事長 中山 英敬 氏  
(株)サンフォート 代表取締役  
徳島同友会代表理事・中同協副会長 山城 真一 氏  
宮崎同友会 理事・事務局長 結城 美佳 氏

佐世保支部 村山 隆之

よく会社の要は「総務」と言います。同友会も含め、色んな団体・協会の要は「事務局」です。現在佐世保支部も会員が急激に増え、役員さんの支部運営が大変

です。佐世保支部の多数の役員・会員は、役員負担軽減のためにも県北地区に「事務局設置」を北松浦支部と共に熱望しています。しかし未だ県執行部の県北事務局設置に関して明言がありません。「会員の要望相談に応えられる会にしよう」という長崎同友会のスローガンは「まやかしか」と、多くの佐世保支部会員は大変不満に思っています。そのような経緯から、私は第16分科会を選択しました。

報告では全国の同友会事務局の状態がまずは語られました。各県で採用の格差、給与の格差等が大きくある。その原因は組織的基盤、財政的な基盤が弱い県が多数あり、年収200万円にも満たない事務局員も存在する。また多くの会員が事務局員を単なる事務局員と

捉えている。同友会に入ると必ず会員は「労使見解」を学ぶ。労使が共に育ちあい、高まりあいの意欲に燃え、活力に満ちた豊かな人間集団としての企業。各会員は、自社の社員をパートナーとして考え企業を高めしていく。

しかし同友会会員は、事務局員を同友会でのパートナーと捉えているか？と、報告者から問われ、私自身戸惑いました。自社の場合、政府主導の働き方改革のため、やれ有給取得だ、残業減らせ、家族手当の増額、退職金の積み立て増額等、会社の利益を減らしてでも改革を行っている。しかし全国の多くの同友会では、事務局員に対して「もう賞与を貰ったの？我が社はいつ賞与支給できるかわからない、あなた達事務局員はいいよね」と、発言する役員さんが多数存在する。このような考え方の同友会で果たして若い事務局員の明るい未来はあるのか？と問われ私自身、ハッとしました。同友会の「労使見解」を全く理解していなかった自分自身が恥ずかしくなりました。

九州各県の同友会の場合、組織的な基盤が弱く事務局員の数も少なく適材適所に事務局員を配置できない。このような状態を改善するため、九州全体を一つの事務局がまとめ、各県に事務局員を配置する。このような斬新な考え方の提案がありました。各県の事務局員のレベルアップを考えるならば、一県同友会事務局運営では無理が生じます。今後、九州地区同友会事務局が発足するかもしれません。

これから事務局を育てるためには、自社の社員教育同様、事務局員の未来が明るくなる各県の運営理念、詳細な仕組みづくりが必要と思います。ある県の事務局員が言っていました。素晴らしい代表理事の時は、厳しいことも沢山言われたが、事務局員を守ってくれた。つくづく会社経営も事務局運営も一緒に考えさせられました。今回の分科会での山城氏の報告は心に響くお話ばかりでした。徳島同友会の事務局は楽しく働いている事務局である。そのような社風ならぬ局風を創り上げたのは、事務局長を中心とした局員である。事務局長が職場のリーダーとなり、率先して事務局の労働環境を改善している。そのためには代表理事と協議しながら行なっている。そこで大事なことは代表理事の覚悟である。また徳島同友会では、県役員が「経営



実践塾」で学び経営指針書づくりを行う。山城氏は、「徳島同友会では経営指針の成文化をしない会員は、県の役員にはしない」と断言しました。徳島同友会では県理事が労使見解を良く理解しているため、例えば事務局員にユニフォームを支給しようという提案が出て誰も反対する理事はいなかった。理事が労使見解を学び事務局員の労働条件を考える。全国の事務局員の中には、メンタルを病む事務局員が出ている。このようなメンタルを病む事務局員が出るのは、周囲の人間が労使見解を学んでいないことも一因である。全国の事務局員の賃金のバラツキが多いのは事務局人事の取り決めがないためである。事務局員を会員のパートナーと捉え、会の事務処理と共に同友会運動のセンターであるとの位置づけを持ち、単なる事務員ではないという考えが必要である。現時点での全国369名の事務局員の雇用責任は誰か？理事会か？代表理事か？各県で賃金、労働条件等すべてバラバラなのは、そもそも中同協に基準がないためである。事務局改善には、全ての理事が労使見解を学びお互い腹を割って話し合うことが必要である。近い将来事務局をブロック毎に運営し、人的支援等を行い各県の事務局員の働き方、賃金等を平準化し、事務局員に夢のある職場となるよう会員も意識改革を行ない事務局の改善改革を推進する。それが廻りまわって同友会の発展、強いては全国の会員の会員満足に繋がっていくものと思う。

最後に、今回の分科会グループディスカッション中、皆さんに質問しました。「事務局員の適正数はいくらですか？」返ってきた答えは「各同友会の会勢でも違うが一般的に会員100名～150名に対して事務局員1名である」この答えからも県北地区事務局員1名の配置は無理難題ではないと確信しました。

## 中同協 会員増強決起集会 参加報告

日時：8月22日(木) 13:00～18:00 会場：TKPガーデンシティPREMIUM田町

代表理事 金井 政春

中同協設立50周年の今年、最重要課題である会員数5万名達成に向けての決起集会が東京で開催され、

原田仲間づくり委員長と峰事務局次長の3人で参加してきました。会場についてまず驚いたのは参加者の多さでした。通常の幹事会では150名前後ですが、今回は257名の参加でした。一番多かったのは大阪同

友会の33名でした。勿論全同友会からの参加で1人での参加の同友会もあり、会員増強に向けた各地同友会の熱意の違いを感じました。

最初に3つの同友会から20分ずつの実践報告がありました。広島同友会から「県理事会が会員増強の先頭に立とう」と題しての報告がありました。広島信用金庫の幹部の方、各支店長さんに例会に参加して同友会の良さを感じていただき、取引先を多く紹介いただいている。同友会の役員の会社はショールームの商品のようなもので、魅力ある企業でなければならない。そして「いこる」ところには人は集まる。よってリーダー、役員が本気で「いこる」（炭を熾すときに炭が赤くなり燃え広がる様子）ことだとの報告がありました。2700名の目標まであと62名と順調のようでした。長崎同友会の仲間づくり委員会は広島同友会に負けないうらい「いこってる」と私は感じています。

続いて東京同友会の須賀江戸川支部長より増強の取組について報告がありました。2012年58名だった会員が6年後の2018年には2倍以上の120名を超える会員数になったとの報告で、原因は「出番と居場所を与えた」「例会皆勤賞を出した」「新入会員研修、合同入社式を開催した」等の報告がありました、長崎同友会でもすでに取り組んでいる内容でした。

最後に島根同友会の小田代表理事から創立以来16年連続増強の取組について報告がありました。100



名になるまで8年かかり、200名を10年目に達成し、17年目で300名を達成し、今年度500名を目指す、最終的には組織率10%の1000名を目指しているとの報告でした。地域の疲弊を克服するために他団体と連携強化して「明日の島根のために！」を合言葉に会員増強に努めるとのことでした。

その後のグループ討論では北海道同友会の守代表理事がおられ熱く語られました。会員数5963名で年度末までに6000名達成を目指す北海道同友会ですが、守代表理事は楽勝、余裕だと発表されました。「俺がやるから手伝ってくれ」の熱い思いを持ったリーダーが多く、楽しくやっているからだそうです。長崎同友会もあと150名の増強を目指し残りの半年間全力で頑張らしましょう。ちなみに全同友会が目標を達成すると51,000名を越えるとのことでした。

### 理事・仲間づくり委員長 原田 良太

本会は中同協の目標である、全国5万名会員を今年度実現するべく、全国の組織強化担当や各県代表理事等々が参加する集会である。冒頭広浜会長からのあいさつでは、これまで先人が培ってきた中同協理念の実践の積み上げを、改めて噛みしめ、この実践の火を発展的に継続させることの重要性が話された。また、我々組織強化の担当者が中同協の役割を自覚することが迷いのない実践に繋がっていくのではないかとということもあいさつで触れられた。

冒頭のあいさつの後は広島、東京、島根とそれぞれ先進的な実践の取り組みをしている3同友会からの実践報告があった。

報告をした広島の立石代表理事とは同じグループでもあり、グループディスカッションでもその実践のありようを詳しく聞くことができた。グループディスカッションの中ではいかに同友会のことを知り、同友会の活動を本気で好きになっている人が会員増強の輪

を広げていくことができるかというような話もあった。そういったポイントになる人が増え、同友会活動が多面的に、活発になった時には爆発的に会員数が増えていくのではないかと感じた。

3同友会の報告を聞いているとこの間言い続けてきた、「数だけを追わない」、「なんのための仲間づくりかを広める」「楽しく仲間づくり活動を進める」といったことは間違いではなかったのではないかと感じた。

ただし、「数だけを追わない」活動については、「数だけを追わない」が、一定の目標値については確認し、行動のバロメーターとすることは必要ではないかと感じた。ただし、このことにより目標値が先行して、数字だけを追いかけるようなことがないように配慮をしなければいけないと考えているため、仕組みについて考えていきたい。

行くまでは、少し怠いなと思っていたが、参加してみたらやはり元気を貰えた。今年度も折り返し地点が目前となっているが、後悔がないよう取り組みを進めていきたい。

### 同友会事務局 峰 圭太

全国5万名達成に向けて250名を超える参加の

中、開催された決起集会に参加させていただきました。

冒頭広浜会長から同友会の立ち位置と①理念を体現していく使命②理念を広めていく使命の2点を提起さ

れ、増強活動はあらためて同友会のよさを内外に発信し、強靱な組織と地域をつくっていくことの大切さを話されました。その後広島同友会の立石代表、東京同友会の須賀江戸川支部長、鳥根同友会の小田代表からそれぞれ事例報告をいただき、最終的には福島同友会の藤田理事長から問題提起をいただきました。共通して言えることは「何のために増強活動を行うのか」という点です。三つの目的にあるよい会社になり、よい会社をつくることで、自社で働く社員が幸せになる。社員が幸せになるということはその家族も幸せになる。そのような会社が地域に多くなれば、おのずと地域もよくなる、という循環です。

グループディスカッションでも各地同友会と情報を共有しましたが、ゲストリストの作成や仲間づくりの日の開催など共通の取り組みも多々見られました。た

だし重要なことは最後の中山幹事長のまとめにもありましたが①楽しく②その気になって③みんなで④最後まで行う、ということに落ち着くかと思います。

その中で事務局の役割の一つに会活動の主体者として、活動や運動を停滞させることなく推進することがあげられると思います。例会や委員会が充実し、できるだけ多くの会員さんが活躍する場面を会員さんと共につくることも重要なミッションです。長崎同友会は10年連続で純増となり、着実に会勢を伸ばしています。現在第5次ビジョンに沿って組織検討特別委員会を設け、組織のあり方についても議論を重ねています。会員さん、会員企業、事務局そして地域の「四方よし」のため、またギアを入れなおして日々仕事に臨みたいと思います。

## インターンシップ受け入れ報告（県共同求人委員会）

### 理事・共育委員長 松本 一孝

純心大学人文学部2年生の瀬戸口美央さんにインターンシップで(株)マツモト（スーパーマーケット）に来ていただきました。経営理念の説明後、事務・惣菜・青果・精肉・鮮魚部門の順番で実習。コミュニケーション能力が高く、関わった全ての部門での評価が高かったです。「鮮魚・精肉等々のバックヤードが臭くない。整理整頓が行き届いている。トイレが綺麗。全てのスタッフが仕事を楽しんでいる」との感想をいただきました。卒業後は海外、出版、食品を入社希望業種として目指すそうです。当社でのインターンシップの後、スペイン留学へ旅立ちました。



### 長崎出島支部 菅原 千代枝

初めてのインターンシップの受け入れを行いました。ゴミの処理をどう効率よくしているのか知りたいという学生さんが来ていただきました。社内の動きなど全体的に見てもらいたかったため、事務・工場作業・現場の繋がりを把握してもらいました。各業務の連携がとても重要なことだと感じ取ってもらいました。スムーズな連携にはお互いの思いやり、コミュニケーションなどが関わっていることも学んでもらえたようです。私たちにも気づかなかったことをたくさん教えてもらいました。

最終日は昼食にバーベキューを行い、5日間の感想を発表してもらいました。和やかな雰囲気です。親



睦も深まりました。



# 事務局企業訪問

今回は長崎市の新大工商店街で英会話スクールを営む長崎出島支部 レイガー 裕美さん（プレイデイ・イングリッシュ）にお話を伺いました。

## 【プレイデイ・イングリッシュ】



2010年に創業。未就学～小学生を中心に、現在は0歳～82歳までの生徒さんを対象に授業を行っています。スタッフの5名のうち4名は外国人で、ネイティブの英語を学ぶことができます。

社名の「プレイデイ」は「遊ぼう！」といった意味で名付けました。英語は難しいという意識をなくし、楽しみながら遊びの延長線上として学ぶことができるようにと考えています。

また目標がないと生徒も英語を学ぼうと気持ちが向かないため、クラスでは毎回、小さな目標を設定して必ず達成できるようにしています。達成することで自信をつけ、英語を学ぶだけでなく、人間としての成長につながるよう取り組んでいます。

## 【英会話スクールの創業】

レイガーさんは長崎市で生まれ育ち、幼少の頃に好きだったテレビ番組の「セサミストリート」で英語に興味を持つようになりました。英語への興味は成長に連れて増し、大学も英語を学べる学部へと進学しました。卒業後は福岡に勤めていましたが、アメリカ人の旦那さんとの結婚を機に長崎に戻りました。

結婚後、旦那さんは英会話スクールに勤めていたのですが、マニュアルに沿った指導であり、もっと楽しんで英語を学んでもらいたいという気持ちが強くなり、レイガーさんとともに、地元のふれあいセンターで子供たちを対象とした英会話スクールを開催しました。そうすると評判も良く、生徒は半年で60人を超え、ふれあいセンターで英会話スクールを始めた2年後に英会話スクールを開きました。

## 【経営指針作りへ】

今年の7月にスタートした経営指針実践セミナーに参加しているレイガーさんは、自社を分析するうちに場当たり的な経営をしていたと自覚し、何が自社に必要なか考えるようになりました。また自社を変えるためには自分が変わらないといけないと思い、まだ始まったばかりのセミナーですが、意識が変わり非常に良かったと感じているそうです。

また経営指針実践セミナーや同友会活動を通して、特に雇用に関する考えが変わったそうです。社員の入れ替わりが多く、外国人の社員はそのうち自分の国へ

帰ってしまうのだろうという気持ちがありました。しかしそうではなく、「どうやったらもっとうちで働き続けたいと思ってもらえるか」という気持ちが経営者であるレイガーさんに足りなかったと気づき、これからどう取り組むかを考えるきっかけとなりました。

## 【ミッションと今後の展望】

### ミッション

*To be the benchmark of excellence in English education for children in Nagasaki Prefecture.*

(長崎の子ども英語教育の水準をより卓越していく)

ミッションには長崎の子供英語教育レベルを上げていくことで、自社が他の英会話スクールにも刺激を与える。さらにはライバル関係である他社の英会話スクールとも協力することでさらに長崎の英語教育のレベルを上げていきたいという思いがあります。

そして自社における今後の展望として、違う地域でのスクールの開設や幼稚園や病院等へのさらに出張授業を行うことで、英語を学びたいというニーズに応える取り組みをしたいと考えています。将来的には、英語を学び、話すことができるのに活躍の場がない人たちに、英語を使って働く場所を提供したいという夢も持っています。

今回の企業訪問では、英会話スクールという事業を通じて、子供達の人間としての成長と地域を良くしていくというレイガーさんの思いを知ることができ感銘を受けました。まだまだ課題が多いとおっしゃっていたレイガーさんですが、経営指針を成文化することで課題の解決と夢の実現につながることを祈念いたします。

## <会社概要>

プレイデイ・イングリッシュ

〒850-0017 長崎県長崎市新大工町2-23 コムラビル

TEL：095-822-5608 FAX：095-822-5608

HP：http://playday-english.com



(文責 事務局 田口 友廣)

# 新入会員の皆さんです <8月入会・復会・交代> (敬称略)

## <入会>

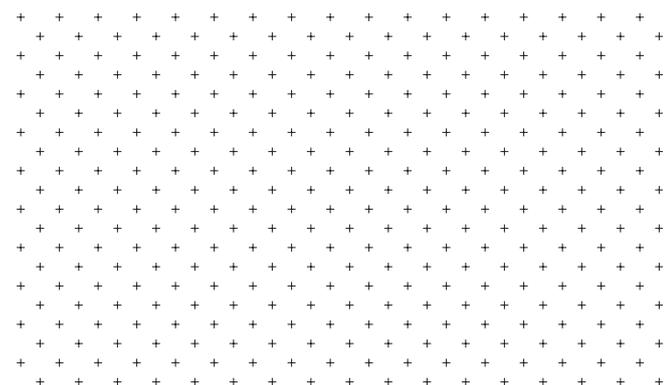
支 部 名	長崎浦上支部		
氏 名	のぐち ひろこ 野口 博子		
企 業 名	出島ベース企画(株)		
役 職 名	専務		
企 業 住 所	〒850-0035 長崎市元船町7-7 K2ビル 402号		
T E L	095-855-1886	F A X	095-855-1886
業 種	建設業		
スポンサー	大城 あゆみ		



支 部 名	長崎出島支部		
氏 名	かきもと あつこ 柿本 敦子		
企 業 名	(有)かきもと		
役 職 名	取締役		
企 業 住 所	〒851-0251 長崎市田上2丁目6-7		
T E L	095-827-2235	F A X	095-821-8413
業 種	生花販売		
企 業 PR	生花小売業はもとより、卸業、御葬儀、御婚礼など生花を扱う装飾全て承っております。今後もお客様に喜んでいただけるサービスをご提供できるようにこれからも社員一同一層の努力をする所存です。		
スポンサー	久松 恵		



支 部 名	長崎出島支部		
氏 名	さかい たかひろ 酒井 貴大		
企 業 名	もつ鍋居酒屋 ばか正直		
役 職 名	代表者		
企 業 住 所	〒850-0901 長崎市本石灰町1-7 2F		
T E L	095-829-2555	F A X	095-865-8080
業 種	飲食業		
企 業 PR	私達は飲食業でございます。長崎でNo.1のもつ鍋屋を目指してます。私、自身人間力を磨いていつも社員、お客様が笑顔でいれる環境作りをしていきます！		
スポンサー	菅原 千代枝		



支 部 名	長崎出島支部		
氏 名	つだ とよみ 津田 豊美		
企 業 名	税理士法人 ネクスト・プラス		
役 職 名	執行役員		
企 業 住 所	〒854-0022 諫早市幸町32-8		
T E L	095-815-8801	F A X	050-3737-0131
業 種	税理士法人		
企 業 PR	税理士法人ネクスト・プラス5つの強み ①30年超の歴史と信頼 ②税理士3名 ③20名を超えるスタッフ ④長崎市と諫早市にオフィスを設置 ⑤グループ会社では保育園とヨガスタジオを運営 当社のB to C事業経験で提供		
スポンサー	菅原 千代枝		



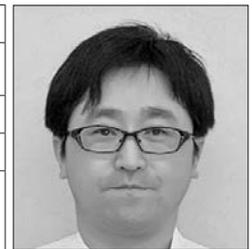
支 部 名	大村支部		
氏 名	しのぎき しんたろう 篠崎 真太郎		
企 業 名	篠崎電工		
役 職 名	代表者		
企 業 住 所	〒856-0801 大村市寿古町298-2		
T E L	090-1168-3532	F A X	
業 種	電気工事業		
スポンサー	宮崎 洋輔		



支 部 名	大村支部		
氏 名	はじめと ゆうさく 樫本 雄作		
企 業 名	(有)ハジモト工業		
役 職 名	代表取締役		
企 業 住 所	〒856-0818 大村市今津町1415-1		
T E L	0957-53-5349	F A X	0957-52-3176
業 種	エクステリア・左官工事・基礎工事		
企 業 PR	住宅基礎、左官工事(タイル・塗り壁等)、外構エクステリア工事(ブロック・フェンス・カーポート等)の施工を行っており、数多くの現場経験を活かし、責任をもって提案・施工していきます。		
スポンサー	大塚 真一		

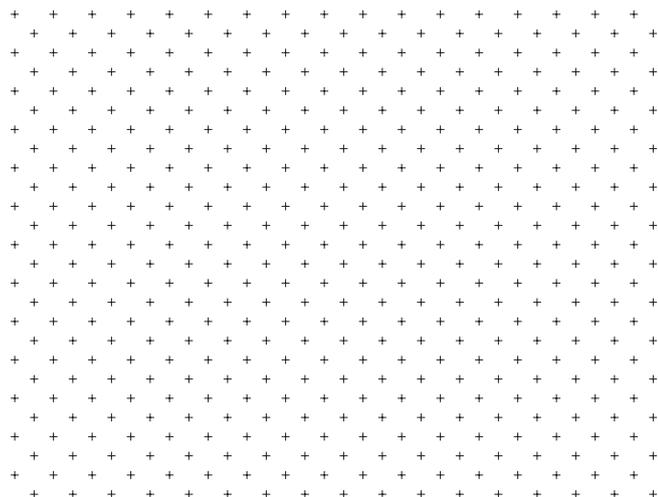


支 部 名	諫早支部		
氏 名	たかはし たけし 高橋 武志		
企 業 名	(株)トータス		
役 職 名	専務取締役		
企 業 住 所	〒854-0062 諫早市小船越町576-3		
T E L	0957-24-1506	F A X	0957-24-1508
業 種	調剤薬局		
企 業 PR	お薬を安全にご使用いただき、患者さまが健康な暮らしに近づけるよう調剤薬局としてサポートします。		
スポンサー	高橋 攄見・山口 大輔		





支 部 名	北松浦支部		
氏 名	かわくぼ としみ 川久保 稔美		
企 業 名	(株)ライティア		
役 職 名	取締役常務		
企 業 住 所	〒859-4744 松浦市星鹿町岳崎免1131		
T E L	0956-75-0320	F A X	0956-75-0330
業 種	機械器具製造業		
企 業 PR	自然な清流に近い環境の水質改善酸素発生装置製造。		
スポンサー	松瀬 久一		



## < 復 会 >

支 部 名	佐世保支部		
氏 名	ふなつ だいすけ 船津 大輔		
企 業 名	(有)西海物産館		
役 職 名	代表取締役		
企 業 住 所	〒851-3422 西海市西彼町小迎郷96-2		
T E L	0959-28-0345	F A X	0959-28-1130
業 種	レストラン・ホテル・ドライブイン		
企 業 PR	西海橋の絶景を見ながらお買物やお食事が楽しめます。		
スポンサー	小松屋 隆久		

## < 交 代 >

支 部 名	佐世保支部		
氏 名	しばた やすなり 柴田 靖也		
企 業 名	(有)西海物産館		
役 職 名	支配人		
企 業 住 所	〒851-3422 西海市西彼町小迎郷96-2		
T E L	0959-28-0345	F A X	0959-28-1130
業 種	レストラン・ホテル・ドライブイン		
企 業 PR	長崎県内のお土産品を多数とりそろえています。		
前 会 員	小松屋 隆久		

## 9月理事会 報告

9月5日(木) つくば倶楽部 出席21名 欠席7名

### 開会あいさつ (抜粋) - 金井代表理事

お盆明けから雨が続いております。被害などなかったでしょうか。最近の天気は過去の常識が通じなくなっていますので注意しましょう。明日は会員研修会です。役員は大変かと思いますが、長崎同友会の雰囲気を変えるべくご協力お願いします。

### 仲間づくりについて

1) 入会・復会・交代・退会の承認について  
-入会2名、復会・交代1名、交代1名、退会6名を承認

2) 仲間づくりの進捗状況・具体的活動状況について  
・原田仲間づくり委員長 総括  
現状は厳しい状況です。仲間づくりの日以降、数字が伸び悩んでいます。「増強」の「増」の仕組みづくりはしているのですが、そこを支える「強」の部分、同友会に入っの魅力とその発信を仲間づくり委員会だけでなく全体で、特に理事会はしっかりと責任を持って取り組みをお願いします。9月の委員会の際に改めて「強」の取り組みについて提案をしたいと思ひます。仲間づくり委員会だけでなく、4委員会なども一緒に取り組みができればと思ひます。

#### ・金井代表理事

仲間づくり委員会のムードは非常にいいです。このムードを誰がサポートするかというと支部長の皆さんだと思ひますので引き続きよろしくお願ひします。基本的に会員が増えと会の認知度が増え活動も活発になります。会員企業にも良い

影響がありますので、改めて仲間づくり委員会のみなさんと支部長のみなさん、サポートをよろしくお願ひします。

### 協議・承認事項

- 1) 経営フォーラムについて
  - ①第26回 経営フォーラム in いさはやについて - 平湯実行委員長・廣谷副実行委員長  
→当日タイムスケジュールを承認
  - ②第27回 経営フォーラム(担当-長崎出島支部)実行委員長 承認依頼について - 田中支部長  
→第27回 経営フォーラム実行委員長として、本多 邦暁会員を承認
  - ③2021年度・2022年度 設営担当順番入れ替えについて  
→五島担当の経営フォーラム開催の際は県として支援部隊をつくることを承認  
→経営フォーラムの順番の入れ替えについては、五島支部は再度持ち帰り支部で協議する
- 2) 役員選考委員の指名・承認について - 山口専務理事(欠席のため山田事務局長)  
→「役員選考規程」に則り、役員選考委員を指名・承認
- 3) 賀詞交歓会について - 山田事務局長  
(三役会案) - 「本年の展望」(スクール形式) → 「懇親会」(立食)  
→三役会案を承認
- 4) 来期総会日程について - 山田事務局長  
(三役会案) - 4月17日(金) パークベルズ大村での開催を

提案

→三役会案を承認

- 5) ビジョン委員会からの提案について－川上ビジョン委員長  
 <提案内容>  
 ①グループディスカッションシート(A3サイズ)の裏面に「第5次ビジョン」と「ビジョン到達に向けての7つの柱」を印刷してはどうか  
 ②①が承認を得た場合の印刷については、各支部で対応  
 →ビジョン委員会からの提案を承認
- 6) SDGsの取組(アイコンを例会案内への掲載)提案について－中村副代表理事  
 (提案書をもとにした三役会案)  
 まず、SDGsの内容を理解するために、経営フォーラム終了後、勉強会を開催。その後できるだけ早くアイコンを例会案内に掲載。  
 →三役会案を承認
- 7) 長崎県からの後援依頼の承認について－山田事務局長  
 ・大会名－九州・山口70歳現役社会推進大会 長崎県大会  
 ・日程－11月1日(金) ・会場－長崎ブリックホール  
 ・主催－長崎県 他  
 →長崎県からの後援依頼を承認
- 8) 新幹線 西九州ルート整備推進協議会 構成団体への加入について－山田事務局長  
 →加入を承認

報告・連絡事項

- 1) 8月 県本部・支部・委員会等の活動状況について  
 <<委員会等>>

例会	19日(月) 19時00分～ シーハットおおむら 出席者 11名 1. 表彰制度について 準備された資料の内容3項目(①平均最大出席賞 ②単月最大出席率賞 ③最大ゲスト参加賞)で決定 2. 各支部7月例会の「評価・検証」報告 3. 例会レジュメについて 4. 事務局より、その他持ち寄り議題 ・ペーパーレス化 ・SDGs 世界を変えるための17の目標
経労	(1)今年度の活動方針「経営労働委員会の活動を全支部に拡大し、活発化する」 (2)具体的な活動について 2-1 「経営者塾」の開催 2-2 経営指針実践セミナー(第3期)の開催 2-3 県委員会と支部委員会活動の活発化 (今回の活動) 8/22 諫早支部8月例会にて今年度の経営労働委員会の活動の報告 2-1 「経営者塾」の開催 ⇒ 印刷準備中 2-2 「経営指針実践セミナー」の開催 ⇒8/24 第2回開催 参加者11名/申込み14名 2-3 県委員会と支部委員会活動の活発化 ⇒・島原支部 経営指針実践セミナー開催予定 ・大村支部 経営理念作成 9月開催予定 ・諫早支部 経営理念作成 2社内定
共育	9月2日に委員会開催
政策	■8/9(金)「長崎市中小企業振興基本策定」に関する長崎出島支部役員への説明会@事務局

	7月長崎浦上支部例会にて報告した上記条例策定に向けての内容を、長崎出島支部役員各位に行った。多くの質問事項も寄せられ条例についての基本理解を深めることもでき、かつ策定に向けての機運も高まったように感じる。 ■8/23(金) 長崎大学山口ゼミとの打ち合わせ@長崎大学 皆様にご協力いただいた「長崎同友会版2019景況調査」の集計結果について確認した。この結果を基に更に内容充実すべくヒアリング対象企業を選定した。 ■8/30(金)「長崎市中小企業振興基本条例策定プロジェクトチーム」発足会@長崎市内
情報 広報	19日(月) 19時00分～ シーハットおおむら 出席者5名 1. 広報誌 編集会議 2. ホームページについて ・リンク集バナーの変更検討 3. e.doyu 利用 ・7月アクセス数63% 返信率57%に推移している(前回より若干アップ) 4. その他・情報交換 ・メールマガジン グーグルグループ試験運用 ・e.doyuの内容に関して要望があれば報告 (例 e.doyu内にチャット機能、アプリの導入等)
仲間 づくり	今期入会について各支部奮闘していただいているが、退会者数が目立ってきている。 9月17日に委員会が開催されるため、各支部状況を共有し、対策を考えていきたい。
ビジョン	19日(月) 19:00～21:00 第2回委員会を開催し、「第5次ビジョン」と「ビジョン到達に向けての7つの柱」の普及活動について協議 1 例会時の具体的取組 ・例会時「第5次ビジョン」と「ビジョン到達に向けての7つの柱」をA3サイズのラミネート加工したものを、各テーブルに2枚ずつ配置する ・各支部例会時に、ビジョン委員から、毎月2委員会分の第5次ビジョンについて説明を行う(7つの柱については時間に余裕があれば説明を加える) ・上記試みを本年度いっぱい実施・検証し、ラミネートの内容を視覚的に分かりやすいもの(図や絵の活用)にして、より会員が理解しやすい内容に改定する 2 ラミネート用紙の管理方法 ・各支部のビジョン委員がそれぞれ管理する 3 具体的取組の追加提案 ・ディスカッションシート(A3サイズ)の裏面に第5次ビジョン等を印刷して、例会時に各会員へ配布
ダイバー シティ	26日(月) 19:00～21:00 シーハットおおむら 出席者9名 ・ダイバーシティ一歩先の競争戦略へ 参加報告 ・福岡同友会バリアフリー委員会 (株)障がい者つくし更生会 見学参加報告 ・障がいのあるひともない人も共に生きる平和な長崎県推進協議会 参加報告 ・4委員会報告 ・11月ダイバーシティ委員会例会について 例会内容外国人技能実習生について/ターゲット「人材不足の企業」/担当諫早支部 ・各支部委員長報告 ・今後の取り組み 特別支援学校との連携を各支部でおこなってもらう

共同求人	・現在会員企業が長崎純心大学よりインターン受け入れ中。
	9月の活動予定 ・9/5-6日：共同求人社員教育合同委員会(東京)に、橋口(佐世保)・野方(諫早)が出席 ・9/10：事務局にて産業雇用安定センターとの打ち合わせ(野方・事務局峰) ・9/13：つくば倶楽部にて、委員会開催

う。集まって参加すると何かしら学ぶことがあります。自信を持って参加促進をしていきましょう。

3) 例会について(更なる充実をめざして)-徳田例会副委員長  
 8/19に例会委員会を開催しました。その中で各支部の7月例会について「評価・検証」の報告がありました。例会はシミュレーションがしっかりとされていて内容も充実していますが、運営については不備も出てきました。チェックリストや役割分担について各支部で見直しをしようとのことでした。表彰制度について2019年11月~2020年3月の期間で3賞があります。各支部で取り組みをお願いします。

2) 会員研修会について-山領担当副代表理事  
 今年から役員研修会を会員研修会と名前を変えて一般会員にも参加してもらえるようにしました。役員の参加も少なく、こういった取り組みはまずは役員が率先して参加していただかないといけないと感じました。明日はしっかりと鋤柄さんから学び、有意義な時間としましょう。

4) 中同協 主要行事の参加状況と報告  
 ・障害者問題委員会 参加報告-中村副代表理事  
 ・5万名会員実現会員増強決起集会 参加報告-金井代表理事・原田仲間づくり委員長  
 ・第6回 経営労働問題全国交流会・経営労働委員会 参加報告-宇土経営労働委員長

(金井代表理事)  
 私たちが参加しようと声をかけないといけないと思います。そういう雰囲気ができるまで、理事の皆さんで声掛けしましょ

※次回開催 10月3日(木) 19時 つくば倶楽部

## 10月例会案内

他支部の例会情報は、ホームページやe.doyuからも閲覧・参加申込可能です。

(掲載がない支部は経営フォーラムを例会に充当)

### ●第26回 経営フォーラム in いさはや

日 時 10月19日(土) 13:00~20:45  
 会 場 国立諫早青少年自然の家  
 テーマ 「令和維新」大自然の中で初心に戻り  
 次代の経営力を創る

- 記念講演 バラリンピック銅メダリスト 副島 正純 氏  
 テーマ「次代への挑戦~今、私にできること~」
- 第1分科会 長崎ウエスレヤン大学学生  
 コーディネーター 学長 佐藤 快信 氏  
 テーマ「次代の人財発掘と確保」
- 第2分科会 (株)昭和堂 代表取締役 永江 正澄 氏  
 テーマ「次代への経営力」
- 第3分科会 (有)谷田建設 代表取締役 社長 谷田 政行 氏  
 テーマ「次代へ繋ぐ事業承継」
- 第4分科会 合同会社HRC代表社員 安井 忠行 氏  
 テーマ「ダイバーシティは次代を変える!!」
- 第5分科会 (株)恵比寿組 代表取締役 谷 信一郎 氏  
 テーマ「原点復帰から始まる次代への経営指針づくり」

### ●大村支部

日 時 10月17日(木) 18:30~21:00  
 会 場 シーハットおおむら 第3回会議室  
 テーマ ひろがる無限の可能性  
 ~未来を支える生徒の夢・希望・実践を知ろう~  
 報 告 者 長崎県立 虹の原特別支援学校 山下 祐司 氏  
 長崎県立ろう学校 荒木 誠治 氏  
 (有)トップウォーターメイツスイムクラブ  
 木下 紗菜菜 会員

障がい者雇用のきっかけの一つとして職場実習があります。今回は実習に向けての各学校で作業に励んでいる、学校での取り組み・生徒さんの取り組みなどを報告していただくと共に、実際に雇用されている職場など現状報告をしていただきます。人材獲得が難しい昨今、子どもたちの秘めた戦力と現状を知り、長期人材活用戦術について学びましょう。

### 会費引落し手数料の改定について

10月1日施行予定の消費税率引き上げに伴い、10月分(10月15日引落し)より銀行口座からの会費引落し手数料が**110円**となりますことをご理解いただきますようお願い申し上げます。

### 会員動向

●企業住所等変更 **植野 敏 会員** (長崎出島支部)  
 新会社名: GRANT(株) 新役職: 取締役専務

退会者 (敬称略)

### 会 員 数 (9月1日現在)

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	134	130	125	100	90	200	45	38	900
期首	113	112	97	91	68	181	42	31	735
現在	111	110	102	93	69	183	40	32	740

会員名	会社名	支部名	入会年月
山田 末美	夫婦経営の教科書	長崎浦上	2019年 4月
井上 浩人	(株)サニーサイドファクトリー	大 村	2018年12月
佐藤 輝樹	(特非)チャレンジド人財センター	大 村	2018年 4月
狩野 源一	(株)東洋軒	諫 早	2009年 1月
松本 聖	(有)トモハウス	佐世保	2013年 3月
宮崎 利津子	はまなすグループ	五 島	2013年10月